

昭和57年度通常総会開かる

昭和57年度通常総会は、さる4月27日に開かれ、OR学会賞の授与があわせて行なわれました。以下に総会の議事録と、事業報告・計画、決算、予算をお知らせします。

昭和57年度通常総会議事録

1. 日 時 昭和57年4月27日(火) 15:00～17:00
2. 場 所 日本アイ・ビー・エム株式会社 オーディオトリウム(東京都港区六本木3-2-12)
3. 出席者 松田武彦他 708名(内委任状による出席677名)
ただし会員総数1946名(1/3は649名)

4. 議事の経過および結果

上記のとおり出席者が定数に達したので、定款第28条により松田会長が議長となり、議事録署名人に川野幸三郎、柳井 浩の両氏を選出して議事に入った。

第1号議案 昭和56年度事業報告の件

柳井理事より、昭和56年度事業報告書にもとづき説明があり承認された。

第2号議案 昭和56年度決算報告の件

中井理事より、昭和56年度決算報告書にもとづき説明があり、この報告に関し宮川監事より監査報告がなされ承認された。

第3号議案 昭和57年度事業計画の件

柳井理事より、昭和57年度事業計画案について説明があり原案どおり承認された。

第4号議案 昭和57年度予算案の件

中井理事より、昭和57年度予算案について説明があり原案どおり承認された。

第5号議案 昭和57年度および58年度役員選任の件

定款第15条にしたがい、昭和57年度および58年度役員候補者が発表され満場一致で選任された。

第6号議案 昭和57年度および58年度評議員選任の件

定款第19条にしたがい、昭和57年度および58年度評議員候補者が発表され、満場一致で選任された。

以上で議案の審議を終了し、日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞、普及賞、文献賞、事例研究奨励賞の受賞者発表ならびに表彰に入った。

森村表彰委員長ならびに原野表彰副委員長より選考経過の説明があり、会長より第6回日本オペレーションズ

・リサーチ学会実施賞は、財団法人 電力中央研究所に、第7回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞は、日本アイ・ビー・エム株式会社に、第10回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞は、田辺國士氏に、第2回事例研究奨励賞は矢野禎一・天海清志の両氏にそれぞれ授与された。

引続き、新フェローとして小田部 齊、西田俊夫の両氏が紹介され、会長よりフェロー記が贈呈された。

以上により総会の議事を終了し、議長は閉会を宣した。

昭和56年度事業報告書

I 事業の状況

1. 研究発表会

- (1) 3月12日、13日の両日、大阪府立大学において、第49回研究発表会を開催し、3月14日には、神戸ポートアイランド物流センター他を見学した。

特別テーマ 物流問題

特別講演

- 1) 久保田鉄工におけるロジスティックス・システム 永山 幸次
2) 量販店の物流について 永峯 昭

発表件数

特別セッション 6件

特別テーマ 6件

一般発表 82件

部会報告 8件

参加者数 314名

- (2) 11月26日、27日の両日、筑波大学において、第50回研究発表会を開催し、11月28日には、国立公害研究所他を見学した。

特別テーマ マイコン社会におけるOR

特別講演

- 1) マイクロ・コンピュータについて 森 亮一
2) 設計者からみたマイクロプロセッサの展望 嶋 正利

- 3) 切除平面は役に立つか 今野 浩

発表件数

特別テーマ 2件
 一般発表 93件
 部会報告 3件
 参加者数 302名

2. シンポジウム

11月25日、筑波大学において、第9回シンポジウム「社会情報システム」を開催した。参加者数は50名であった。

3. 研究部会活動(表1)

表1 研究部会終了、中間報告

*印は研究部会終了を示す

部会名	主査 幹事	メンバー	開催 回数	内 容	場 所
*数理計画法	茨木 俊秀 (京 都 大) 石井 博昭 (大 阪 大)	36名	18回	数理計画法の理論と応用に関する研究発表および情報交換の場として、主に関西在住のメンバーによって3年間運営された。この間はほぼ月に1回の会合をもち、約60件の研究発表が行なわれた。	京 大 会 館 新 住 友 ビル
*日本における社会システム分析	小島 光造 (小野事務所) 小岩 明 (社会環境シ ステム研)	20名	15回	研究の主眼を日本人社会を支配している本質的要因の究明におき、そこを原点として社会のいろいろな問題を演えきしようとしたものであったが、きわめて貴重な成果を得た。今後はこれをさらに発展したものととして、未来の不確実性の解明に科学的メスを入れるべく、未来分析研究部会を開催の予定である	小野勝章事務 所
*数理計画	刀根 薫 (埼 玉 大) 茂原 一洋 (電 中 研)	23名	7回	数理計画の基礎から応用までをめざして幅広い研究活動を行なっている。本年度は通常の部会活動の他に「数理計画法研究部会」と共同して第2回数理計画シンポジウムを開催した。また第3回数理計画シンポジウムの準備をしつつある。	統計数理研究 所
*実施理論	松田 武彦 (東 工 大) 山田 善靖 (産業能率大)	37名	16回	OR/MS情報システムを含む情報技術を経営活動において有効に活用し、マネジメントの改善をはかるために情報技術の組織への実施が必要である。そこで情報技術の実施問題を諸科学の理論を用いて研究した。	東京工業大学
創造性開発の 数学モデルと コンピュータ ・ペイズド ・デザイン	三重野博司 (理 科 大) 広内 哲夫 (文 教 大)	34名	8回	「創造のプロセス」を数学モデル化し、シミュレーションを行なうことにより、コンピュータに創造的デザインをさせようという研究であるが、現在のところシミュレーション直前の段階までできたところで2年経ったので、もう1年延長し成果を上げたい。	第22森ビル (電々公社デ ータ通信本 部)
経営コンサル タント	上田亀之助 (上田イノベ ーション研) 樋爪 徹 (山之内製薬)	27名	12回	複雑で常に変化を続けている現実を数量的に処理して、内部経済と外部経済とを高めてゆく社会的有機体の経営について、もともとに応じて観察し、熟考し、より良い具体的で効果的な提案を創出して、経営の創新(イノベーション)の手伝いをするを業とするコンサルタントは、いかなる能力を身につけ、どのように奉仕するか? これが研究の対象であり責務であります。	東京都勤労福 社会館
政策問題	湊 晋平 (武田薬品) 細貝 康夫 (協同システ ム開発)	15名	11回	OR誌9月号特集に「政策科学の展開と手法」と題し部会報告をした。通常研究会および特別例会「合意統合手法シンポジウム」,合宿研修を行なった。57年度は学会発表,文献翻訳を配慮し,また合宿研修や特別例会も行なう。	三総菱合研究 所
予測とその周 辺課題	西野 吉次 (早稲田大) 浪平 博人 (ブリヂスト ンタイヤ)	15名	12回	予測と実現値の乖離に対する解明を進めることを目標に、いろいろの予測に関する事例を研究している。他に海外情報を集めるため、1979年TIMSから出版されたモノグラフ;Forecastingの輪読も行なっている。後者については、報文集を作る予定。	早稲田大学 システム科学 研究所
交通問題	横山 勝義 (レールウェー ・システム・ リサーチ) 杉野 隆 (新 日 鉄)	12名	10回	数多くの交通問題の中で、交通分野論をとりあげ、これにOR的アプローチを試みようとしてこの部会を発足した。2年を経過したが、その間、内航・道路・鉄道・航空機などの夫々の専門家から意見を聞き、政府の印刷物等を種に、会員の自由討議を行なってきたが、いまだ確たる成果を得るにいたっていない。あと1年を延長し、その間にわれわれの考えをまとめあげ、次の研究に引き継ぎたいものと考えている。	東洋経済ビル

環境システム	有水 彊 (農林水産省) 小田中敏男 (都立工科短大)	6名	12回	第1に生態学に対する深い理解と第2に計画制御に対する省察と第3にOR的接近の意義を検討することを目的とする。(1)方法 (2)地域科学 (3)資源エネルギーに重点を置く。	日本科学技術連盟
決定理論とその応用(関西)	坂口 実 (大阪大) 栗栖 忠 (大阪大)	14名	8回	ゲームの理論, 機会解析の理論, 探索理論, 取り替え理論等の決定理論とその応用に関する諸々の話題の中から最新の研究成果が紹介され, 意見交換が行なわれた。特に探索理論の分野において貴重な成果が得られた。	大阪大学基礎工学部数理教室
決定理論とその周辺(九州)	児玉 正憲 (九州大) 岩本 誠一 (九州大)	15名	8回	(1)動的計画, マルコフ型決定過程, 多目的計画などの最適化理論, (2)社会システム, 経営組織システムなどのシステム科学, (3)不均衡経済モデルの解析, (4)IFORS 国際会議報告	九州大学経済学部
混雑現象と待ち行列	森村 英典 (東工大) 木村 俊一 (東工大)	32名	10回	広い意味での混雑現象のアプローチを探るのが目的で, その有力な手段である待ち行列の勉強を続けながら, より広い観点から考察を進める。さまざまな現場でおこる問題やその解析例と理論的研究の紹介とを並行して行なっている。	東京工業大学
デジジョン・サポート・システム	松崎 功保 (IBM) 星 孝雄 (成蹊大)	21名	10回	比較的新しい概念体系を含めるように努力しつつ, 次の4つを主要研究課題にオープンメンバー・システムをとっている。①日本的DSSの概念形成 ②効果と限界 ③設計と実施 ④国際的視野での交流 ⑤研究普及	各メンバー持ちまわり

4. 普及活動

(1) 月例講演会(表2)

表 2

通算回数	開催地区	開催年月	テ	マ	講 師	参加人数
第82回	本 部	56年9月	ORとマネジメント—	あいまいさの概念—	Kaufman, Arnold	28名
第83回	中 部	9月	信頼性について		三根 久	33名
第84回	九 州	11月	グラフ理論を応用した化学プラントの異常診断		松山 久義	16名
第85回	本 部	11月	アメリカにおける Management Science	の最近の動向	Gass, Saul	33名

(2) モニター制度

昨年度より, OR誌をはじめ研究発表会, シンポジウムその他学会活動に対する会員の要望を広く把握するため, モニター制度を発足させた。今年度第3期モニターとして23名の方々を, 第4期モニターとして21名の方々をお願いし, 毎月アンケートに回答していただいた。また, 研究発表会時にはモニター会議を開催し, 各モニターから積極的,かつ建設的な意見を集めることができた。

(3) 第2回ORセミナー

昭和56年11月19日, 20日の2日間「意思決定のための会計情報講座—基礎と応用」に関するセミナーを慶応義塾大学教授伏見多美雄氏を講師として開催した。参加者は34名であった。

5. 刊行物

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌「オ

ペレーションズ・リサーチ」Vol. 26 No. 3 から Vol. 27 No. 2 まで, 12号(本文753ページ)を発行した。各号は特集を主とし, 他にトップの視点, 連載講座, 事例研究, 解説, フォーラム, 書評, 文献紹介, 部会報告等を掲載した。特集のテーマは次のとおりであった。

Vol. 26 No. 3 「物流」, 同 No. 4 「待ち行列の現状」, 同 No. 5 「創造への接近」, 同 No. 6 「海外プロジェクト・マネジメント」, 同 No. 7 「エネルギー問題とOR」, 同 No. 8 「TQC/CWQC」, 同 No. 9 「政策科学の展開と手法」, 同 No. 10 「ゲーム理論とその応用」, 同 No. 11 「効用理論とその応用」, 同 No. 12 「ファジィ・システム論」, Vol. 27 No. 1 「生産システムの問題と動向」, 同 No. 2 「人間の行動モデル」

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol.24 No.1 から No.4 の4号 (393 ページ) を発行した。本年度の投稿論文は38編で掲載論文は27編であった。

(3) 研究発表会アブストラクト集
春・秋研究発表会のアブストラクト集を発行した。

(4) 報文集

「オペレーションズ・リサーチのためのデータとプログラムに関する研究」(T-76-1)の第2刷を発行した。

6. 国際協力

(1) IFORS(国際OR学会連合)の第9回国際OR会議が昭和56年7月20日から24日までドイツ連邦共和国のハンブルグ市で開催され、日本の代表論文として下記の2編が発表された。

- A Soil Recycle System Model and the Transportation Problem

榛沢芳雄(日大), 松田武彦(東工大)

- The Cutting Stock Problems in the Iron and Steel Industries

徳山博子, 上野信行(住友金属)

その他, Contributed Papers Sessions に16編の発表があった。

(2) 第9回国際OR会議への参加を中心とした「欧州におけるOR実施状況」視察団の派遣を行なった。

視察団は, 松田武彦団長, 鈴木誠道副団長, 川瀬武志, 柳井浩幹事以下総員22名。

7月17日出発, 西独ハンブルグ市において開催された IFORS 大会に参加, その後フランス・パリ市においてパリ市交通局, コダック・パテ社, イギリスにおいては石炭庁, SIA, Shell 社等を訪問, 各所におけるOR活動に関する説明をうけ, また見学した。8月2日帰国。

(3) IFORSが発行する IAOR (International Abstracts in Operations Research)誌の編集に協力し, 日本の文献抄録50編を送付するとともに, IAOR 誌の Vol.22 No.1~3, Vol.23 No.1~3 の国内頒布に協力した。

7. 支部活動

各支部ごとに表3のとおり活動した。

表3 支部活動報告書

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回	支部総会 1回	支部総会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回	支部総会 1回 役員会 1回	支部総会 1回
	運営委員会 4回	運営委員会 1回	運営委員会 1回	運営委員会 2回	幹事会 1回	運営委員会 1回
研究会	2回	2回	6回 研究発表会 1回 事例研究発表会 1回	数理計画法 9回 信頼性保全性 2回 決定理論とその応用 9回		4回
	講演会 1回 協賛 1回	1回	2回 月例講演会 1回	5回	4回	2回 月例講演会 1回
出版			支部ニューズ 12回 支部研究発表会 アブストラクト 1回 支部事例研究発表会 アブストラクト 1回			
その他			見学会 5回 懇親会 4回	見学会 1回	研究発表会 2回 研究懇談会 1回 広島市における ゴミ収集計画策定に関する研究 懇談会 12回	見学会 1回

8. 表彰

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞
第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞を
下記に対して授与した。

- Maximizing a Convex Quadratic Function
over a Hypercube

JORSJ Vol.23 No.2 今野 浩(筑波大学)

第10回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞の
選考を行ない、下記のとおり決定した。

- Feasibility-improving-gradient-acute-projection
methods: A unified approach to nonlinear
programming

THE NEWTON METHOD AND RELATED
TOPICS Vol.3

- A geometric method in nonlinear program-
ming

J. Optim. Theory Appl. Vol.30

田辺國士(統計数理研究所)

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞
第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞を
下記に対して授与した。

- 河田龍夫(慶応義塾大学)
- 小林宏治(日本電気株式会社)

第7回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の
選考を行ない、下記のとおり決定した。

- 日本アイ・ビー・エム株式会社

(3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞を
下記に対して授与した。

- 中国電力株式会社

第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞の
選考を行ない、下記のとおり決定した。

- 財団法人 電力中央研究所

(4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨
励賞

第1回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究
奨励賞を下記に対して授与した。

- 財務諸表を用いた長期経営計画のためのシステム
オペレーションズ・リサーチ Vol.22 No.3 西田俊
夫グループ(西田俊夫, 角本武彦, 国村道雄, 品川為
紀, 青沼龍雄, 長浜穆良, 真鍋龍太郎)
- 工場群における電力・蒸気の最適供給システム
オペレーションズ・リサーチ Vol.23 No.4
瀧口幸弘・金子準二(宇部興産株式会社)
- 小売店立地計画の新しい考え方
オペレーションズ・リサーチ Vol.24 No.5

木下知己(株式会社 三菱総合研究所)

第2回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究
奨励賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

- 立体自動倉庫の計画・設計手法について
オペレーションズ・リサーチ Vol.26 No.3

矢野禎一・天海清志(株式会社 竹中工務店)

9. 研究助成候補者の推薦

昭和56年度の研究助成候補者として下記のとおり推薦
した。

(1) 鹿島学術振興財団

- 田口賢士(代表), 赤木新介, 中易秀敏, 岸 光男,
Stian Erichsen, Winston Rojas J

「国際協力に基づく発展途上国の海事業振興計画
に関する研究」

- 西野吉次(代表), 塩沢清茂, 大滝 厚, 岡本真一,
浦谷 規, 小野勝章, 松崎功保, 村越稔弘

「エネルギー有効利用と環境問題」

(2) 国際交通安全学会

- 栗村正和(代表), 岡田禎二, 宮元敏男

「新交通システム[神戸新交通ポートアイランド線]
の開発と実用化」

付記: 昨年度, 推薦をした研究助成候補者のうち, 下
記の2件が採択された。

- 鹿島学術振興財団

「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズムの調
査研究」(代表: 伊理正夫, 助成金額: 400万円)

「都市廃棄物の処理に関する研究」

(代表: 青木兼一, 助成金額: 300万円)

10. 研究調査受託

テーマ「薬価基準存在下における医療用医薬品の流通
問題に関する研究」

依頼者 社団法人 日本薬剤師会 受託金額60万円

上記のテーマについて委員会(委員長 柳井 浩)を設け
研究を行ない、報告書ならびに資料をとりまとめ提出し
た。

11. 他学協会との交流

他学協会の開催した講演会等下記のとおり協賛・後
援をした。

- (1) オフィス・オートメーション・セミナー
- (2) シミュレーション・テクノロジー・コンファレン
ス
- (3) 熟年者活性化セミナー
- (4) 国際自動制御連盟第8回会議
- (5) セミナー「マイコンソフトウェアの生産性」
- (6) 「システム方法論」講習会
- (7) 第7回システム・シンポジウム

- (8) 第2回数理計画シンポジウム
- (9) 講義会とセミナー「予測モデルと決定・制御手法と実例」
- (10) 第24回自動制御連合講演会
- (11) 第1回医学・生物学に関する情報学連合大会
- (12) 第9回計測と制御におけるミニコンとマイクロコンピュータ講習会
- (13) 第5回ビークル・オートメーション・シンポジウム
- (14) 第32回自動制御講習会「シーケンス制御の現状」

12. 創立25周年記念事業

(1) OR学会史年表の編集

OR学会史委員会(横山勝義委員長)は、わがOR学会の創立以来25年間における研究成果、OR活動の普及、ORの諸分野への応用とその実績等々を明らかにし、社会の動向と世界のORの傾向を背景として、ORの意義と課題を考察すべくその時系列的関連を一見してわかるような年表の形にとりまとめることを計画した。現在すでにその粗案を完成、印刷業者とも折衝中である。

(2) 記念出版事業

記念出版委員会(原野秀永委員長)は、過去における本学会文献賞受賞の論文の翻刻出版を計画している。なお当該テーマの研究のその後の発展状況に関する原著者による解説もこれに附する予定。

(3) 長期計画の策定

同委員会はオペレーションズ・リサーチ学会の今後あるべき姿を策定すべく、松田武彦委員長、小田部齊副委員長のもとで、各方面の意見をとりいれた粗案の作成作業を進めている。

II 処務の概要

1. 通常総会

5月15日、東亜燃料工業株式会社社会議室において昭和56年度通常総会を開催し以下の報告・審議が行なわれ、原案どおり承認された。

- 議題
- (1) 昭和55年度事業報告の件
 - (2) 昭和55年度決算報告の件
 - (3) 定款変更の件
 - (4) 昭和56年度事業計画の件
 - (5) 昭和56年度予算の件
 - (6) 昭和56年度役員選任の件

議事に引続いて文献賞、実施賞、普及賞、事例研究奨励賞の表彰が行なわれた。

2. 理事会

昭和56年3月より理事会を7回開催し、学会の運営について審議検討した。

3. 評議員会

定款35条にもとづき4月12日評議員会を開催し、総会に提出予定の議案につき会長の諮問に応じた。

4. 支部長会議

支部長会議は、3月11日(大阪)と11月25日(筑波)の2回開催し、OR学会の諸問題につき意見が交換され、本部と支部の意見調整が計られた。

5. 委員会・幹事会等

(1) 常設委員会

編集委員会 16回, 研究普及委員会 7回
IAOR委員会 9回, 表彰委員会 5回

(2) その他の委員会・幹事会

25周年記念事業委員会14回, モニター委員会12回
モニター会議 2回, 庶務幹事会 9回
会長候補者選考委員会2回, 会計幹事会 3回

6. 会員の状況(表4, 表5)

表 4

	名誉 会員	正会員	学生 会員	賛助 会員	計
1981年2月末日	5	1,909	140	108	2,162
1981年度入会		128	53	6	187
1981年度 移行	学→正	58	-58		0
	正→学	-1	1		0
1981年度退会	-1	-84	-6	-4	-95
1981年度除名		-38	-3	-1	-42
1981年度復活		3			3
1982年2月末日	4	1,975	127	109	2,215

表 5

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員
本 部	3	1,218	95	67
北 海 道		59		5
東 北		63	1	3
中 部	1	161	1	10
関 西		288	23	13
中国四国		120	5	7
九 州		66	2	4
合 計	4	1,975	127	109

昭和56年度収支決算報告書

貸借対照表(昭和57年2月28日)

1. 資産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動資産	現金預金	49,201,532	
	未収金	1,439,390	
	前払金	184,043	
流動資産合計			50,824,965
有形固定資産	什器備品	271,680	
	有形固定資産合計		271,680
資産合計			51,096,645

2. 負債の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動負債	預り金	275,605	
	未払金	1,811,644	
	前受金	21,934,012	
流動負債合計			24,021,261
固定負債	退職給与引当金	6,490,335	
	敷金引当金	1,310,640	
	名簿作成引当金	1,000,000	
	国際協力引当金	3,654,792	
	記念事業引当金	1,242,560	
	表彰事業引当金	100,000	
	別途引当金	3,029,466	
	固定負債合計		
負債合計			40,849,054

3. 正味財産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
基本金	基本金		5,000,000
剰余金	次期繰越収支差額 (うち当期増加額)	5,247,591 (267,561)	

剰余金合計		5,247,591
正味財産合計		10,247,591
負債及び正味財産合計		51,096,645

財産目録(昭和57年2月28日)

		金額	
(資産の部)			
I 流動資産			
1. 現金預金			
(1) 現金			
現金手許有高	438,309		
(2) 振替貯金			
東京地方貯金局	610,582		
(3) 当座預金			
第一勸業銀行 八重洲口支店	25,216		
住友銀行 白山支店	45,325		
(4) 普通預金			
第一勸業銀行 八重洲口支店	5,976,971		
住友銀行 白山支店	6,450,337		
(5) 定期預金			
第一勸業銀行 八重洲口支店	27,000,000		
住友銀行 白山支店	8,654,792		
2. 未収金			
56年度会費外	1,439,390		
3. 前払金			
抜刷代金外	184,043	50,824,965	
II 有形固定資産			
1. 什器備品 複写機外			271,680
資産合計			51,096,645

		金額	
(負債の部)			
I 流動負債			
1. 預り金			
職員に対する源泉 所得税外	275,605		
2. 未払金			
家賃・共益費等	356,644		
視察団派遣費外	1,455,000		
3. 前受金			
主として57年度会 費前受金	21,934,012	24,021,261	

II 固定負債	
1. 退職給与引当金	6,490,335
2. 敷金引当金	1,310,640
3. 名簿作成引当金	1,000,000
4. 国際協力引当金	3,654,792
5. 記念事業引当金	1,242,560
6. 表彰事業引当金	100,000

7. 別途引当金	3,029,466	16,827,793
負債合計		40,849,054
正味財産		10,247,591

(注) 基本財産たる資産
定期預金(第一勧業銀行八重洲口支店) 5,000,000

収支計算書 (昭和56年3月1日から昭和57年2月28日まで)

収支計算の部

1) 収入の部

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
基本財産 運用収入	基本財産利息収入		350,000	350,000	0	
事業収入	会誌頒布収入		12,801,900	12,074,895	727,005	
	研究発表会収入		2,805,000	3,201,000	△ 396,000	
	講演会収入		247,500	169,200	78,300	
	講習会収入		1,200,000	1,029,320	170,680	
	資料等頒布収入		300,000	361,520	△ 61,520	
	IAOR収入		465,000	481,200	△ 16,200	
	EJOR収入		84,000	119,000	△ 35,000	
	視察団参加収入		11,700,000	15,010,900	△ 3,310,900	
	研究調査収入		0	600,000	△ 600,000	
入会金収入	正会員入会金収入		120,000	129,000	△ 9,000	
	学生会員入会金収入		25,000	26,500	△ 1,500	
会費収入	正会員会費収入		17,994,000	18,116,762	△ 122,762	
	学生会員会費収入		855,000	823,500	31,500	
	賛助会員会費収入		9,345,000	9,065,000	280,000	
引当金取崩 収入	記念事業引当金取崩収入		800,000	0	800,000	
雑収入	広告収入		2,480,000	2,955,820	△ 475,820	
	受取利息		2,000,000	2,167,939	△ 167,939	
	雑収入		140,000	201,422	△ 61,422	
前期繰越 支差額			4,980,030	4,980,030	0	
収入合計			68,692,430	71,863,008	△ 3,170,578	

2) 支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
管 理 費						
	家 賃		2,289,600	1,941,500	348,100	
	共 益 費		715,100	681,960	33,140	
	什 器 備 品 費		50,000	47,850	2,150	
	会 議 費		600,000	421,281	178,719	
	旅 費 交 通 費		1,250,000	888,370	361,630	
	通 信 費		1,100,000	960,403	139,597	
	印 刷 費		610,000	437,520	172,480	
	消 耗 品 費		600,000	539,414	60,586	
	修 繕 費		20,000	13,160	6,840	
	給 料 手 当		5,839,600	5,754,144	85,456	
	福 利 厚 生 費		1,104,000	960,175	143,825	
	臨 時 雇 賃 金		892,000	601,800	290,200	
	保 險 料 金		30,000	33,200	△ 3,200	
	負 担 金		40,000	31,900	8,100	
	支 払 手 数 料		110,000	89,560	20,440	
	租 税 公 課		20,000	12,000	8,000	
	退 職 給 与 引 当 金 繰 入 額		200,000	500,000	△ 300,000	
	敷 金 引 当 金 繰 入 額		150,000	150,000	0	
	備 品 償 却 費		200,000	200,000	0	
	雑 費		100,000	126,129	△ 26,129	
	損 金		0	1,130,600	△ 1,130,600	
事 業 費						
	研 究 発 表 会 費					
		開 催 費	1,290,000	1,487,170	△ 197,170	
		印 刷 費	1,250,000	1,099,720	150,280	
	印 刷 製 本 費					
		機 関 誌	12,970,000	12,949,880	20,120	
		論 文 誌	2,000,000	1,949,618	50,382	
		報 文 集	200,000	225,000	△ 25,000	
		印 刷 費	150,000	65,900	84,100	
	国 際 協 力 費					
		I F O R S 会 費	252,000	233,554	18,446	
		I A O R 購 入 費	316,800	247,770	69,030	
		E J O R 購 入 費	90,000	90,777	△ 777	
	視 察 団 派 遣 費		11,700,000	13,465,909	△ 1,765,909	
	研 究 活 動 費					
		講 演 会 開 催 費	135,000	157,100	△ 22,100	
		講 習 会 開 催 費	904,000	787,690	116,310	
		研 究 部 会 費	700,000	700,000	0	
		支 部 費	1,738,000	1,738,000	0	
	研 究 調 査 費		0	600,000	△ 600,000	
	表 彰 事 業 費		200,000	245,151	△ 45,151	
	記 念 事 業 費		800,000	74,900	725,100	
	会 議 費		660,000	412,470	247,530	

	旅費交通費	650,000	522,300	127,700
	通信運搬費	3,349,000	3,247,554	101,446
	諸謝金	2,030,000	1,683,300	346,700
	給料手当	5,839,600	5,754,144	85,456
	編集校正費	1,440,000	1,475,000	△ 35,000
	消耗品費	691,000	701,090	△ 10,090
	表彰引当金繰入額	100,000	100,000	0
	国際協力引当金繰入額	0	1,000,000	△ 1,000,000
	雑費	100,000	80,454	19,546
予備費		1,000,000	0	1,000,000
支 出 合 計		66,475,700	66,615,417	△ 139,717
次 期 繰 越 収 支 差 額		2,216,730	5,247,591	△ 3,030,861

昭和57年度事業計画書

わが日本オペレーションズ・リサーチ学会も本年25周年をむかえるはこびとなった。一方わが国の経済も低成長の時期に入ったとはいえ、規模の拡大とともに名称の如何にかかわらず、ORは多方面の活動に必要不可欠なものとなってきている。実質的な貢献をめざす熟成したOR活動とその普及には今こそ最も力を入れるべきときであろう。このような見解にもとづき昭和57年度の事業計画においては、25周年を記念するいくつかの事業を軸に会員の増強と財政的基盤の強化のため、下記のような活動を通じて上記目的の達成をはかる。

1. 研究発表会、シンポジウム

(1) 研究発表会は、春秋2回開催し、春季は3月24日、25日に名城大学において、秋季は9月16日、17日に慶応義塾大学において開催する。

見学会は、3月26日に春季研究発表会とあわせて行なう。

特別テーマは春季は「オフィス・オートメーションとOR」秋季は「ORの実用」とする。

(2) シンポジウムは9月18日慶応義塾大学において行なう。

テーマは「ORのマネジメント」とする。

2. 通常総会

通常総会は4月27日東京において行なう。

3. 研究部会活動

研究部会は「創造性開発の数学モデルとコンピュータ・ベイズド・デザイン」、「経営コンサルタント」、「政策問題」、「予測とその周辺課題」、「交通問題」、「環境システム」、「決定理論とその応用(関西)」、「決定理論とその周辺(九州)」、「混雑現象と待ち行列」、「デンジョン・サポート・システム」、の既設10部会の活動を引き続き推進

するとともに、新たに「未来分析：主査 小島光造(小野勝章事務所)」、「確率モデルとその応用：主査 小和田正(名古屋工業大学)」、「数理計画法(関東)：主査 小島政和(東京工業大学)」、「数理計画法(関西)：主査 青沼龍雄(神戸商科大学)」、「OR/MSとシステム・マネジメント：主査 山田善靖(産業能率大学)」、「ビジネスゲーム：主査 村山乾一(追手門学院大学)」、「エネルギーモデル：主査 小川洋(千葉工業大学)」、「リスク・マネジメント・システム：主査 佐伯胖(東京大学)」、「第3世界とマイコン：主査 森口繁一(電気通信大学)」がその活動を開始する。

4. 普及活動

第3回ORセミナーを企画実施する。定例講演会、座談会、学会活動の広報等のOR普及活動に努める。またOR誌をはじめ、OR普及活動について広く意見を求めるためのモニター制度を継続する。

5. 刊行物

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を12号、論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌)を4号発行する。

(2) 研究発表会アブストラクト集を2回発行する。

(3) 報文集を発行する。

(4) 会員名簿を発行する。

6. 国際協力

(1) IFORS(国際OR学会連合)を通じて各国のOR学会と協力する。

(2) 国内のOR文献抄録の作成を通じIAOR誌の発行に協力するとともに、IAOR誌の国内頒布を行なう。

7. 支部活動

各支部において研究会、講演会、見学会等の活動を行なう。

8. 表彰

文献賞, 実施賞, 普及賞ならびに事例研究奨励賞の昭和57年度選考を行なう。

9. 受賞・助成金推薦

他学協会等の依頼に応じ推薦に協力する。

10. 他学協会との交流

他学協会との交流を積極的に進める。

11. 創立25周年記念事業 (実行委員長 松田武彦)

(1) OR学会史年表の編集

OR学会史委員会(横山勝義委員長)は、わがOR学会の創立以来25年間における研究成果, OR活動の普及, ORの諸分野への応用とその実績等々を明らかにし, 社会の動向と世界のORの傾向を背景として, ORの意義と課題を考察すべくその時系列的関連を一見してわかるような年表の形にとりまとめる。

(2) 記念出版事業

記念出版委員会(原野秀永委員長)は、過去における本

学会文献賞受賞の論文に、当該テーマの研究のその後の発展状況に関する原著者による解説をも附して翻刻出版を行なう。

(3) 長期計画の策定

オペレーションズ・リサーチが予測と計画の学問であることを考慮すれば、わがOR学会においても社会の動向を予測し自らの方針を策定し、これを日常の活動に影響させることを今日ではじめるのは、むしろおそきに失したものだといえる。25周年を契機としてOR学会のためのORにとりかかるとべく、長期計画委員会(松田武彦委員長, 小田部齊副委員長)は、すでにある程度集められている会員の声に加えて、各方面へのインタビューをも行ない、これを反映して時代の動向に適合した本学会の長期(約5年)計画の立案を試みる。

(4) 9月中旬秋季研究発表会の時期に25周年記念祝賀会を開く。

上記3事業の成果等もこの機に発表する。

昭和57年度予算書

収入支出の予算

(昭和57年3月1日から昭和58年2月28日まで)

1) 収入の部

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減 (Δ)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		287,500	350,000	Δ 62,500	
事業収入	会誌頒布収入		12,588,900	12,801,900	Δ 213,000	
	研究発表会収入		3,445,000	2,805,000	640,000	
	講演会収入		280,500	247,500	33,000	
	講習会収入		1,350,000	1,200,000	150,000	
	資料等頒布収入		300,000	300,000	0	
	IAOR収入		452,600	465,000	Δ 12,400	
	EJOR収入		84,000	84,000	0	
	視察団参加費収入		0	11,700,000	Δ 11,700,000	
入会金収入	正会員入会金収入		180,000	120,000	60,000	
	学生会員入会金収入		42,000	25,000	17,000	
会費収入	正会員会費収入		24,720,000	17,994,000	6,726,000	
	学生会員会費収入		1,000,000	855,000	145,000	
	賛助会員会費収入		12,350,000	9,345,000	3,005,000	
引当金取崩収入	記念事業引当金取崩収入		1,242,560	800,000	442,560	

雑収入	名簿作成引当金取崩収入	1,000,000	0	1,000,000
	広告収入	2,380,000	2,480,000	△ 100,000
	受取利息	1,700,000	2,000,000	△ 300,000
	名簿収入	900,000	0	900,000
	雑収入	100,000	140,000	△ 40,000
前期繰越収支差額		5,247,591	4,980,030	267,561
収入合計		69,650,651	68,692,430	958,221

2) 支出の部

勘定科目			予算額	前年度予算額	増減(△)	備考
大科目	中科目	小科目				
管理費	家賃		2,140,800	2,289,600	△ 148,800	
	共益費		768,000	715,100	52,900	
	什器備品費		50,000	50,000	0	
	会議費		700,000	600,000	100,000	
	旅費交通費		1,904,000	1,250,000	654,000	
	通信費		1,260,000	1,100,000	160,000	
	印刷費		600,000	610,000	△ 10,000	
	消耗品費		600,000	600,000	0	
	修繕費		20,000	20,000	0	
	給料手当		6,090,000	5,839,600	250,400	
	福利厚生費		1,234,700	1,104,000	130,700	
	臨時雇賃金		600,000	892,000	△ 292,000	
	保険料		37,000	30,000	7,000	
	負担金		40,000	40,000	0	
	支払手数料		110,000	110,000	0	
	租税公課		20,000	20,000	0	
	退職手当引当金繰入額		1,000,000	200,000	800,000	
	敷金引当金繰入額		165,000	150,000	15,000	
	備品償却費		200,000	200,000	0	
	雑費		150,000	100,000	50,000	
事業費	研究発表会費					
		開催費	1,475,000	1,290,000	185,000	
		印刷費	1,250,000	1,250,000	0	
	印刷製本費					
		機関誌	13,200,000	12,970,000	230,000	
		論文誌	2,000,000	2,000,000	0	
		報文集	200,000	200,000	0	
		印刷費	150,000	150,000	0	
	国際協力費					
		I FOR S会費	250,000	252,000	△ 2,000	
		I A O R購入費	259,200	316,800	△ 57,600	
		E J O R購入費	83,160	90,000	△ 6,840	

視察団派遣費		11,700,000	△11,700,000
研究活動費			
	講演会開催費	215,000	135,000
	講習会開催費	1,040,000	904,000
	研究部会費	950,000	700,000
	支部費	2,208,000	1,738,000
		250,000	200,000
表彰事業費		3,500,000	800,000
記念事業費		670,000	660,000
会議費		1,147,000	650,000
交通費		3,464,000	3,349,000
通信運搬費		1,970,000	2,030,000
諸謝金		6,090,000	5,839,600
諸料手当		1,560,000	1,440,000
編集校正費		718,000	691,000
消耗品費		1,000,000	0
名簿作成費		100,000	100,000
表彰事業引当金繰入額		120,000	100,000
雑費		1,000,000	1,000,000
予備費		7,091,791	2,216,730
次期繰越収支差額			4,875,061
支出合計		69,650,651	68,692,430
			958,221

昭和57年度役員名簿

会長 横山勝義
 副会長 三根 久, 本告光男, 渡辺 浩
 庶務理事 川野幸三郎, 今野衛司, 若山邦紘
 会計理事 伏見多美雄
 研究普及理事 古林 隆, 平本 敏
 編集理事 小林龍一, 刀根 薫
 国際理事 高森 寛

無任所理事 飯田徳雄, 飯原慶雄, 権藤 元
 監事 阿部 統, 宮川公男

昭和57・58年度評議員名簿

阿部俊一, 青木兼一, 浅利英吉, 荒木陸彦, 伊理正夫, 池田 孝, 石田 甫, 茨木俊秀, 今川貞郎, 岩田 伶, 榎本久徳, 小田部 齊, 小野勝章, 大野勝久, 大山 達雄, 岡本行二, 奥田好郎, 唐津 一, 川瀬武志, 国沢 清典, 小和田 正, 児玉正憲, 近藤次郎, 権藤 元, 佐久間 孝, 斎藤嘉博, 坂口 実, 須永照雄, 鈴木義一郎, 鈴木誠道, 千住鎮雄, 反町洋一, 高橋磐郎, 高橋幸雄, 竹内 清, 中井直男, 中川 勝, 西木俊彦, 西野吉次, 長谷川利治, 原野秀永, 日比野康文, 本多波雄, 真鍋龍太郎, 三浦大亮, 三浦良一, 水永与士夫, 水野幸男, 森口繁一, 森村英典, 八巻直躬, 八島章一, 矢島敬二, 柳井 浩, 吉村博之, 渡辺 茂 (以上56名)

次号予告

特集 確率システム

マルコフ・システムの制御 大野勝久
 確率システムの推定 片山 徹
 確率システムの安定解析 中溝高好
 マルコフ性の仮定 高橋幸雄
 確率システム理論の基礎的側面 砂原善文

連載講座

APLとOR (1) 竹下 亨
 トップの視点
 青年期のOR 西田俊夫